

(2015.7.15)



義太夫協会会報
第101号

平成27年7月15日

一般社団法人 義太夫協会 発行

〒104-0045

東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル17F

Tel. 03(3541)5471

Fax. 03(3546)2334

<http://www.gidayu.or.jp>

義太夫節ファンは

世界中に眠っています

(公財) 現代人形劇センター理事長

塚田 千恵美

義太夫協会には、私どもの「ひとみ座乙女文楽」が、長年にわたってお世話になっています。乙女文楽は、文楽の人形遣い五世桐竹門造師らが考案し、大正末から昭和前期にかけて人気を博した女性による人形浄瑠璃です。師匠である桐竹智恵子さんは、初期から活躍され、竹本越道師をはじめ女流の方々と一緒に活躍されてきたと伺っていますので、そのご縁は浅からぬものがあります。「ひとみ座」も、古くは竹本素八師、その後は竹本駒之助師はじめ、現在ご活躍の女流の方々を演奏にお迎えしています。六年前からは竹本越孝さん、鶴澤寛也さんに、義太夫節をご指導いただくようになり、目下密かに「人形浄瑠璃界のなでしこジャパン」をめざし？活動中です。

また現代人形劇センターでは、全国の伝統人形芝居の伝承への協力にも力を入れ、近年では、島根県の「益田糸操り人形」への指導を、竹本越孝さん、鶴澤駒治さんをお願いしています。最古の江戸糸操り形式を伝える古格な芸能ですが、保存会は熟年から始めた方がほとんど。義太夫節は、他流の邦楽経験者が文楽の名人のテープを聴いての独学でした。孤軍奮闘のその中に、越孝さん、駒治さんのご指導を得たことで、みごとに嬉しい変化が起きました。保存会はもちろん、関係の行政の方々までも、どうやら義太夫節の魅力に目覚めたようなのです。いまでは若い座員が稽古を始め、公立会館ではお二人の演奏が企画される等、効果は著しいものがあります。

専門家による魅力ある演奏を聴く機会があれば、現代人にも届くのですね。乙女文楽の場合も、人形浄瑠璃初体験の観客の方々が、口を揃えておっしゃるのは、実はまず義太夫節の迫力、美しさです。

日本ではいまだに全国で優に百を超える伝

統人形座が活動し、その多くは義太夫節によるものです。そしてどこも人形以上に義太夫節の伝承が大きな課題です。見方を変えれば、潜在的な義太夫人口は少なくないのではないかと感じるようになりました。

義太夫協会のみなさんは、すでに各地でのご指導にあたられていると伺いますが、さらに、一カ所でも多くの土地で、義太夫節の伝道師として人形芝居の伝承にお力添えをいただくことを願ってやみません。また微力ながら、その機会を少しでも増やせるように、働いていきたいと考えております。どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。



つかだ・ちえみ (公財) 現代人形劇センター理事長。
人形劇プロデューサー。東京都生まれ。早稲田大学第一文学部卒。88年現代人形劇センターに入り、以来、乙女文楽をはじめ、日本各地の伝統人形芝居の紹介と伝承への協力、アジアの人形芝居の招聘公演などを継続する。07年からは伝統と現代、アジアと日本をつなぐ人形遣いの国際的ワークショップを開催。所属する現代人形劇センターは、69年から「ひとみ座乙女文楽」を企画・運営している。 <http://www.puppetr>

通常総会開催

五月二四日、東劇ビル五階、松竹株式会社映像本部会議室にて、通常総会が開催された。平成二六年度の事業報告、決算報告、監査報告が行われたあと、二七年度の事業計画と予算が提示され、全て承認された。

また、新たな技芸員を確保、育成する為の「研修部」の発足が理事会で決定したことが報告された。

また定例公演に関しては、企画力などをも含んだ改善への努力の必要性が確認された。

義太夫協会法人化四五周年

義太夫節保存会創立三五周年

記念公演実施

今年には義太夫協会法人化四五周年、義太夫節保存会創立三五周年にあたり、六月二四日に開催された「女流義太夫演奏会」は、その記念公演となりました。そこで特別演奏をされた師匠・竹本弥乃太夫に法人化当時のことをお聞きいたしました。

もともと義太夫協会の前身は「因会（ちなみかい）」という名称でした。それが途中で「義太夫因協会」になり、法人化と共に「義太夫協会」となりました。昭和四五五年のことでした。

当時は様々な団体が法人化した時期で、ちょうど国立劇場ができるということもあり、その気運に乗って「義太夫協会も法人化しようじゃないか」ということになったそうです。弥乃太夫師の記憶によれば、他の流派と比較しても義太夫協会の法人化は早かったそうです。事務局は新橋演舞場の隣の演舞場別館に置かれ、義太夫教室もその敷地内で行われました。

義太夫教室自体は、既に昭和二三年からスタートしていました。戦後復興もままならぬ時代に、早い段階での開始でした。当時は有志で運営されていきました。川口子太郎、豊竹湊太夫、豊澤松太郎、鶴澤重造などが立ち上げ時に関わられていた方々です。三味線は豊澤猿幸、鶴澤三生、太夫は竹本土佐廣、野澤吉次郎。鶴澤清六など錚々たる方々が講師でいらしたこともありました。

しかし、記念すべき第一期生は五人しか集まらなかったそうです。竹本弥乃太夫は第一期生でした。始まってすぐに読売新聞の取材が入り、それを見て佐々木明郎先生も途中から参加されました。竹本綾太夫さんは数年下って第六期に入られました。

しかし生徒数は依然として増えず、一人、二人の年もあり、こんなに少ないならば、もうやめようか、という話になったこともありました。それでも卒業生や関係者でチラシを配ったり、なんとか絶やさずに続けられました。

そして義太夫教室がちょうど二三期の時、義太夫協会法人化に伴い、教室も義太夫協会運営することになりました。法人化とともに国立劇場内での宣伝が可能になり、受講生は一気に六十人にふくれあがりました。その時はもうてんでこま이었다たそうです。その義太夫教室も、今年度で六八期になりました。記念演奏会当日の演目は、竹本弥乃太夫、鶴澤慎治ほかによる「三作万歳」（妹背山婦女庭訓より）と、女流による「寿式三番叟」と「野崎村」。幕間には会長の波多一索からのご挨拶もあり、節目の会にふさわしい華やいだ雰囲気がありました。（鶴澤弥々）



撮影・福田知弘

義太夫教室卒業・OB演奏会

第六七期義太夫教室（文化庁委託事業「平成二六年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」）卒業発表会・OB演奏会が平成二七年三月十四日（土）、深川江戸資料館小劇場にて賑やかに催されました。また、今回は文化庁委託事業「平成二六年度伝統文化親子教室」として親子で義太夫節を体験した皆さんも一緒に舞台上がりました。

子供達は最初は少々恥しさからか、大きな声が出ませんでした。すぐに覚えて、本を見なくても語れるようになり、親御さん達を追い抜きました。

本番も堂々と立派に出来ました。肩衣姿が可愛いらしかったです。大きくなってからも、この体験を大事にして、伝統芸能に関心を持ってくれる様になったら嬉しいと思います。

（担当講師 竹本土佐恵）



義太夫教室レポート

義太夫教室第六七期は、三月十四日（土）の発表会を経て、三月二一日（土）に無事修了式を迎えました。修了証書を受け取った後は、講師の先生方を囲んでの茶話会。発表会の興奮さめやらぬ中、和気藹々とした雰囲気でした。

修了後は希望の師匠についてお稽古を始めた方々、もう一度じっくり体験してみたい、と六八期への参加を決めた方々、いずれにしても義太夫への熱い思いは継続中の様子。OB会や日本素義会、各師匠方のおさらい会などで、六七期生の晴れ姿が見られる日も近いのではないのでしょうか。

第六八期開講前には四月十一日（土）に一日体験教室が開催されました（語り講師・竹本朝輝、三味線講師・鶴澤津賀寿）。遠く北海道から参加された方もいて、終始熱気に溢れていました。これを機に六八期の受講を決めた方、「二十年ぶりに体験しに来ました」という方など、気軽に参加できる一日体験ならではの光景が見られました。

第六八期は五月二八日（木）に開講。ここ数年、曜日は土曜日限定でしたが、「平日だと参加できるのに」という声も目立つようになったため、入門コースは木曜日と土曜日、それ以降は木曜日に。

入門コース修了後の八月二二日（土）には一日体験教室も開催されます。お問い合わせお申し込みは義太夫協会事務局までどうぞ。

竹本京之助

新人奨励賞受賞

竹本駒之助門下の竹本京之助が、本年度の義太夫協会新人奨励賞を受賞しました。

三月二〇日（金）のお江戸日本橋亭公演には、学生時代の恩師や友人が大勢かけ付け、皆が見守る中、受賞記念の演奏として「一谷嫩軍記」（熊谷桜の段）を語りました。

大学で演劇部に所属した事から役者を志し、得意の身体表現が生かせる人形振りの劇団で、女優として活動していた京之助。声を鍛える為に始めた義太夫が、大きな転機となりました。一人で何役も出来る義太夫に、役者とは又違う魅力を感じ、そして何より師匠のすべてに魅せられて、この道へ。本人いわく、礼儀作法も何も知らなかったの、で、「師匠に人間にして頂きました」との事。

初舞台から八年半。将来の夢を尋ねると、先の事より今を大切にしたい―師匠を尊敬し、今が一番幸せだという京之助。

これからも京之助の「今」をずっと見守って下さる様、応援をお願いします。（竹本佳之助）



撮影・福田知弘

K A A T 竹本駒之助公演五回目は
『鎌倉三代記』八ツ目切「三浦別の段」

神津武男

神奈川芸術劇場での「K A A T 竹本駒之助公演」は、駒之助師の第六一回神奈川文化賞(二〇一二年度)受賞を記念して始まった。

二〇一三年秋以来、既に四回を数え、次回は五回目。今年十月三十一日(土)十一月一日(日)、

演目は『鎌倉三代記』八ツ目切「三浦別の段」。

三味線は初回以来、鶴澤津賀寿さん。大坂夏の陣(元和元年・一六一五年)から四百年に

因んでの選曲だが、四月の発表後に、九月文楽公演で同演目が上演されると判った。図らずも競演となったが、文楽は前半・三浦別、

後半・高綱物語、と分割上演。文楽本公演で

本曲を丸一段で演奏した最後は、一九七〇年

六月(四代津大夫・六代寛治)。「K A A T

竹本駒之助公演」では初回以来、本来の規格

「丸一段」での演奏を掲げていて、今秋も分割無しでの演奏である。ふたつの公演を聴き

比べ、丸一段の迫力・魅力を多くの方に是非、

体感していただきたいと願っている。

なお同公演に関連して、NHK FM 横浜

「横浜サウンド☆クルーズ」で、本曲について解説を担当している。次回は十月六日

(火)・十一月九日(月) 各回とも十八

十九時放送予定。

こんぴら歌舞伎初出演

竹本葵太夫



写真提供 K A A T 神奈川芸術劇場
撮影 西野正将

「讃岐の金毘羅様」で有名な、象頭山金刀比羅宮の麓に、今年で上棟百八十年となる日本最古の芝居小屋、「旧金毘羅大芝居」が保存されている。毎年、「こんぴら歌舞伎」として歌舞伎公演を行い、本年は三十年の節目を迎えた。

竹本連中は皆出演経験があるのに、私はこれまでご縁がなく、今回の初出演を「苦節三十年、おめでとうございます!」と送り出された。かねがね金毘羅信仰に根ざした文化や、守られてきた自然にとっても興味をおぼえていたが、それが滞在中、次々と目前に現われ、実に愉快だった。鶯の鳴く音で目をさまし、象頭山の桜や新緑が心を洗い、好物の讃岐うどんが舌を楽しませた。

何より興味深かったのは、「道頓堀にあった

竹本座を模して建てられた劇場で語らせていただく」：という事で、先人はどんな環境で、どんなお気持ちで語られたのか、思いを馳せることができた。戸外の風雨の音、隙間風の冷たさ、晴れた日に開け放たれた明り取りの窓から入り込む日差し、劇場の木の匂い…。そして残響音の少ない場内の環境とともに、いずれも現代の技術を結集して造られた劇場では経験できないものであった。また出演したいと思う。

きつとご見物皆様にも、見ぬ世の劇場への興味が満たされると思う。どうぞ来年四月をお楽しみに。
(歌舞伎義太夫 太夫)

【<http://twilog.org/aoidayu>「初琴平」】
もようぞ

関西だより

都をどりに出演

今年も「都をどり」に出演させていただきました。「都をどり」は祇園甲部の舞踊公演として明治五年に始まり、今年で一四三回を迎えました。四月の一ヶ月間一日四回の公演ですが、今は義太夫芸妓がいないので、私たち女流義太夫が交代で勤めています。東京の御師匠様や皆様とご一緒させて戴けるのを毎年楽しみにしています。

最近はずいぶん地味な役割の地方(じかた)のなり手が少ないようですが、昔は顔が不細工だと義太夫芸妓にさせられたのだとか…。舞い手の芸妓さんは日によって鳴物にまわったり、お茶を點

(2015.7.15)

てたりと大活躍の日々です。夜は本業のお座敷があるわけですから体力的にも大変と思います。ふだんも「八坂女紅場学園」の生徒さんとして、舞の他にも様々な芸事を学んで自己研鑽に励んで、「京・花街の文化」として永い歴史に培われた京都の伝統美を支えていらつしやいます。

「都をどりは、ヨーイヤサー」の掛け声が始まりますが、数年前「都をどりは、もうイヤサー」とお茶目な舞妓さんが言っていました。舞妓さんの成り手は多くても、芸妓さんに成長していく人は少ないそうです。適性のないことを続けるのは難しいですが、努力の積み重ねや忍耐なしでは、どの世界でも通用しません。「人生は一冊の問題集」に私も地道に取り組んでいきたいと思っています。

ともあれ「都をどり」は絢爛豪華です。春爛漫の京都を来年も是非楽しんで戴きたいと思えます。
(鶴澤寛輔)

※都をどりに、正会員では他に竹本綾之助、竹本土佐子、竹本友香、竹本京之助、鶴澤津賀寿、鶴澤津賀榮が出演致しました。

シリーズ人物像

丸三ハシモト株式会社

常日頃お世話になっている三味線の糸。今回は、和楽器で使用される弦や、絹糸による特殊燃糸の製造を行っている丸三ハシモト株式会社の代表取締役社長、橋本英宗さんにお

話を伺いに、北陸本線に乗って琵琶湖の北端、木之本町（きのもとちょう）に行つて参りました。

創業は明治四一（一九〇八）年。製造した糸は和楽器店などの小売店へ卸すという形で販売を行っている会社です。義太夫のみならず三味線全般のほか、箏、十七絃、琵琶、胡弓、三線などで使う絹糸を中心に様々な和楽器用の弦の製造を行っています。テレビなどのメディアに出たり、ホームページの開設、国際楽器展覧会（上海）への出展、最近ではスチール弦が主流となった中国の古琴の絹弦の製作に挑むなど、様々な楽器の弦の復元や試作も積極的に行つておられます。また社長御自身が平成二五年度の伝統的工芸品産業大賞（作り手部門）準グランプリを獲得するなど、伝統を基本にしながらも、常に進化を続けていく会社です。

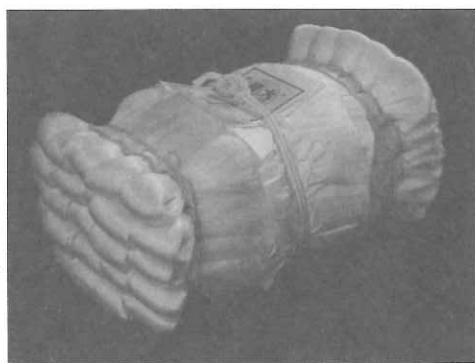


僕自身、スロースターターなどところがありまして。長男でしたので、継ぐだろうな、という気持ちはありませんでしたが、継ぎなさいという言葉を特に

言われたことはありません。

二十代のうちほとんかく任せられた仕事を身につけることに一所懸命でしたから、何のたれにこの作業をするのか、どうしてこのやり方に行き着いたのか、まで考える余裕はあまりありませんでした。三十代になって取引先の方とだんだん話が出来るようになり、四十代になった今、仕事について色々説明が出来るようになった、という感じではあります。

和楽器の弦となる絹糸を製造するには、織物用に用いる絹糸とは異なり、「生挽き（なまびき）」の生糸を用います（写真）。繭を弱めに乾燥させて



生繭に近い状態に留め、それから糸を作ります。繭がもともと持っているセリシンという成分が楽器の弦に使う糸を作るには非常に重要で、この成分によつて糸に張りが出ます。その繭糸一本ずつを集束して、楽器の弦の材料となる生糸を作っていくのです。

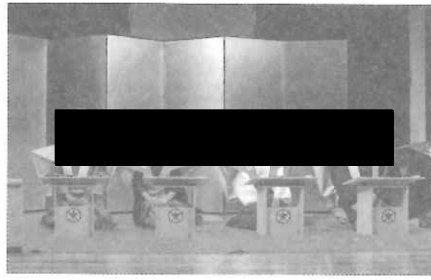
琵琶湖と余呉湖に挟まれた賤ヶ岳山麓にあるこの地域は綺麗な水が抱負で、養蚕や製糸に適した気候や風土を生かし、古くから生糸の生産が行われてきました。（次号に続く）

(2015.7.15)

「こども義太夫」をプロデュース

花井雅保

僕が理事をしているNPO法人「トッピングイースト」で「子供たちが世界を知り、旅してみたくなるように」をテーマに世界中の色々な音楽や楽器に触れて練習して発表会をするというプロジェクトがスタートしました。カリブ海のステイールパンという楽器や、パリの島のガムランといったメニユーの他に選ばれたのが義太夫。やはり、世界を知るにはまず日本から始めたいのと、「声」がなによりも一番の楽器ということをお子供たちに体験してもらいたかったからです。



先生には、竹本京之助さんと鶴澤弥々さんのお二人に来て頂きました。子供たちを紹介する「口上」と忠臣蔵・裏門の段の勘平の登場部分をお稽古。10分足らずですが、義太夫は全く始めての子供たち相手にお稽古は4回のみ。はじめは声を出すのも照れくさがついていた子供たちも、お二人の楽しく熱心なお稽古で、本番も声もいっばいに出て大成功！子供たちのいっばいの太夫さん振りに大歓声でした！

(音楽プロデューサー)

＊祖先祭＊

会場 両国 回向院

平成二十七年十月十二日(月・祝)
午後一時より法要・お話し(水野悠子)・茶話会
参加料 お一人 一〇〇〇円(茶菓付)
お申し込みは義太夫協会まで。

犬猫供養塔八〇年

回向院で行われる「祖先祭」は、始祖・竹本義太夫を初めとする物故された諸先輩に感謝し供養するための祭礼で、少なくとも百十九年以上継続する恒例行事となっています。



竹本義太夫の墓前に位置する「犬猫供養塔」は、太棹(義太夫三味線)に用いられる運命となった犬猫の霊を慰めるため八十年前に建立されたものですが、愛らしい犬猫像には香華の絶えることがありません。ペットの供養に訪れる愛犬家、愛猫家が供えて下さるのでしよう。三味線のバチを模した台座に刻まれた「犬猫供養塔」の文字は、回向院の先々代御住職が書いて下さったものです。当日は、供養塔建立の趣旨、デザイン、回向院との浅からぬ御縁などについてお話し申し上げたいと考えております。

(水野悠子 女流義太夫研究家)

協会の動き

平成二十七年一月～六月

【公演事業】 主催・共催公演

女流義太夫演奏会

一月二〇日(火) お江戸日本橋亭
二月二五日(水) 国立演芸場

※義太夫節保存会主催
第三四回伝承者研修発表会

三月二〇日(金) お江戸日本橋亭
四月二二日(水) 国立演芸場
五月二〇日(水) お江戸日本橋亭
六月二四日(水) 国立演芸場

※義太夫協会法人化四五周年・
義太夫節保存会創立三五周年記念演奏会

【普及事業】

◇義太夫・三味線 一日体験教室

二月七日(土)・四月十一日(土)

◇第六七期義太夫教室 実践コース

一月十日～三月二一日(週一・土曜)

卒業発表会・OB発表会・親子教室発表会

三月十四日 深川江戸資料館小劇場

◇伝統文化親子教室(文化庁委託事業)

一月十日～二月二八日(計五回)

◇第六八期義太夫教室 入門コース

五月二八日～七月二三日

(週二日・木曜土曜)

義太夫協会音源シリーズ第七弾

九月二八日「本牧亭を聴く会」にて発売!

義経千本桜「鮎屋の段」

竹本駒龍 鶴澤駒登久

昭和五四年五月 本牧亭

その他、ハタイトル好評発売中。

お問い合わせは義太夫協会まで。

■正会員のその他の主な活動■

平成二十七年一月〜六月

《定期公演》

「じよぎ」公演 お江戸上野広小路亭

三月、五月の一、二日

「ぎだゆう座 新春公演」 お江戸両国亭

一月一〇日(土)

「ぎだゆう座」公演 お江戸上野広小路亭

二月、四月、六月の一、二日

《その他の公演》

第四五回邦楽演奏会 三月七日(土)

国立小劇場 邦楽連合会主催

《正会員主催公演》

(義太夫協会後援)

竹本弥乃太夫リサイタル

主催・竹本弥乃太夫

一月三十一日(土)

第十三回素浄瑠璃の会

主催・鶴澤三寿々

三月三日(火)

第十二回はなやぐらの会

主催・鶴澤寛也

四月五日(日)

女流義太夫スペシャル・ライブ③

企画・鶴澤津賀花

四月二十九日(水)・三〇日(木)

《協力》

第一〇一回日本素義会 五月二三日(土)

鳥越神社白鳥会館

■協会の今後の予定■

平成二十七年十二月迄

【公演事業】 主催・共催公演 ◎は昼公演

女流義太夫演奏会

※七月二十七日(月) 国立演芸場

※義太夫節保存会主催 若手勉強会

八月十八日(火) お江戸日本橋亭

◎九月二〇日(日) お江戸日本橋亭

十月二二日(木) 国立演芸場

十一月二〇日(金) お江戸日本橋亭

◎十二月二〇日(日) 紀尾井小ホール

本牧亭を聴く会(お話と音源再生)

九月二八日(月) お江戸日本橋亭

【普及事業】

◇義太夫・三味線 一日体験教室

八月二二日(土) 豊川稲荷文化会館

◇第六八期義太夫教室 実践コース

九月三日〜平成二八年三月十七日(木曜)

(前期・後期)

《祖先祭》

犬猫供養塔建立八十年

十月十二日(月・祝) 十三時 両国 回向院

■その他の今後の主な活動■

平成二十七年十二月迄

《定期公演》

「じよぎ」公演 奇数月一、二日

「ぎだゆう座」公演 偶数月一、二日

お江戸上野広小路亭

《正会員主催公演》*協会後援六月十五日現在

女流義太夫スペシャル・ライブ④

企画・鶴澤津賀花

八月十四日(金)・十五日(土)

神楽坂ザ・グリ

第十三回はなやぐらの会 主催・鶴澤寛也

十月十一日(日) 紀尾井小ホール

《文化庁学校巡回公演》

「三味線物語」(中国・四国地区)

《協力》

第一〇一回日本素義会 十二月五日(土) 鳥越神社白鳥会館

《その他》

紀尾井 江戸邦楽の風景「装い」

九月十五日(火)

道行四景 十月十日(土) 国立小劇場

寄付・寄贈 (平成二十七年一月〜六月)

日本素義会様 五万円

竹本協会様 黒紋付き八枚

(義太夫教室卒業発表会用)

水野悠子様 芸能学会 年刊芸能 第二一号

誠に有難うございました。

編集後記 今後とも広告等、様々な形でのご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

会報編集委員/鶴澤寛也(編集長)

・鶴澤賀寿・鶴澤三寿々

編集協力/(二社) 義太夫協会 事務局

義太夫用三味線・張替、水牛駒・見台・湯呑、制作修理 その他、各流三味線及び付属品の御注文承ります。



〒151-0066 東京都渋谷区西原 1-26-14
TEL/FAX 03-3466-2156
P.H.S 070-5457-5687
kimura-wanoshirabe@nifty.com

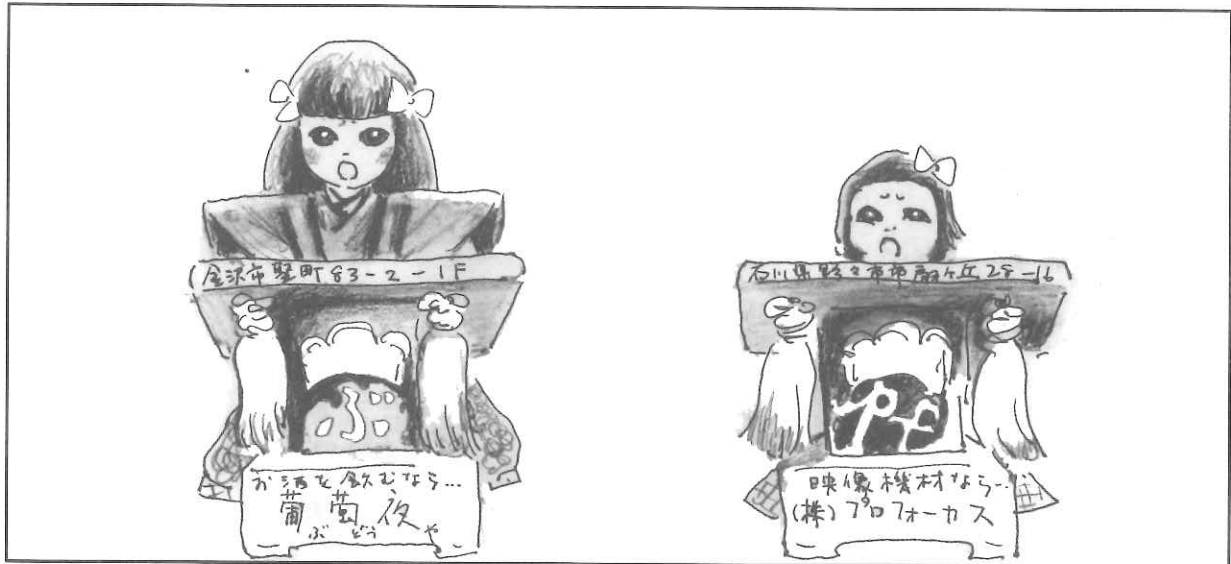
永谷 暑中お見舞い申し上げます

永谷商事株式会社 代表取締役 永谷浩司

本社 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町 1-20-1 tel. 0422-21-1711

お江戸日本橋亭 お江戸上野広小路亭

お江戸両国亭 新宿永谷ホール



地域と共に歩む 不動産賃貸業

株式会社 オータカ

代表取締役	渡	辺	康	成
常務取締役	高	山	早	苗
専務取締役	渡	辺	貞	穂

〒351-0011 埼玉県朝霞市本町 2-5-31
TEL 048-466-2220 FAX 048-466-2684